

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田市立母子小学校長 川嶋 弘則

| 学校教育目標 | | | | 4月 | | 2～3月 | | |
|---|-------------------------|---|---|---|---|----------------------|----|---|
| 推進主体 | | | | 学力向上に向けての重点的な目標 | | 年度末評価 | | |
| 学力に関する前年度の状況・経年の課題等 | | | | (指標となる数値等) | | (成果目標達成のための具体的な手立て等) | | |
| | | | | | | (今年度の成果と来年度に向けた課題等) | | |
| | | | | | | 評価 | | |
| 学 力 の 状 況 | 国語 | ○全校生によるピリオドバトルや教職員によるブックトークにより、低・中学年の図書室や移動図書館の利用率が上がっている。高学年の読書内容については、個人によって差がある。 ・週1回の漢字アタックに向けて、書く練習を積み重ね、小テストの正答率は上がっているもののまとめのテストでは、漢字の定着に個人差がある。 ・書く活動を全学年意識して取り入れているものの読書が少ない児童が多い。 | ○書く・話す活動の充実 ○言語力の向上 ○読書活動の充実 ○根拠を明確にして発表する力をつける。 | ・書くや話すことを通して、表現力を向上させる。 ・漢字や語句の意味などテストにおいて80%以上の正答を目指す。 ・家庭での読書を含め、年間100冊以上の読書量を目指す。 ・「根拠となる部分を明確にして発表することができる。」 | ・授業内で自分の考えを書く場面を積極的に取り入れ、自分の考えをまとめる機会を作る。また、文集やポスター作りなどを通して相手意識を持って書くことができるようにする。 ・あてややりかえり返りを教科や特別活動で行い、全校生の前で意見や感想を述べ合う機会を設ける。 ・毎日の授業や宿題等で漢字を書く機会を設け、週1回の漢字アタック(漢字テスト)で成果を確認した定着を図る。辞書やタブレット端末を有効に使い語彙力を増やす。 ・ピリオドバトルやブックトークの活動を継続し、母子家庭読書の日を設定することにより、読書活動や読書内容の充実を図る。 ・国語を中心に根拠となる部分を見つけて発表ができるようにする。また、学年に応じて図書やインターネットから情報を集め、必要な情報を取り出しまとめる活動を取り入れる。 | (今年度の成果と来年度に向けた課題等) | 評価 | |
| | | 全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む) | ○算数でのひとり学習やおたずねの取組等により、考える力が伸びてきている。 ○朝の計算アタックでは週に1回のドリルパークを加え継続することで、個人差はあるが四則計算などの計算力が伸びてきた。 ◆根拠となる部分を述べてことや、記述を要するような説明問題が弱い傾向にある。 | ○基礎基本となる計算力(四則計算)のさらなる向上 ○ひとり学習の工夫 ○算数での書く力を伸ばし、ホワイトボードや板書だけでなく、タブレット端末を利用し「おたずね」(説明)する力を高める。 | ・週3回以上の計算アタックの中にドリルパークを加え、計算力の定着と基礎学力の向上を図る。朝休みや放課後の時間を利用して個別指導を行い、算数のまとめテストの正答率を80%以上に高める。 ・毎日算数のひとり学習に取り組み、授業の構えを作ると共に、工夫したノート作りをめざす。 ・「おたずね」を通して学びを深めていく。また、大切なことを板書に残し、学びの質を高める。 | | | ・計算アタックでは記録を残しグラフ化することにより、自分で伸びを実感し、さびにやっぴりやよとする意欲につながっている。今後も「見える化」を意識しつつ、個に応じた問題や習字部分を増やすなど、個別最適化を目指して続けていく。 ・低学年の児童も、個別計算を基にした計算問題を行うことにより、力を付けていっている。引き続き家庭と連携しながら継続したい。 ・分からないことをはっきりさせるのも「ひとり学習」の大切な活動であり、分からないことがあれば積極的に質問を促している。引継ぎ時「あて」を立立てるところまでは、自力で行っているように、朝の時間等で支援していきたい。 ・多くの児童が式だけでなく、図や表、グラフ、線分図など、式とつなげて考えたり絵や文字などができるようになってきている。また、図解や線分図など活用できるようになっている。多角的に考えることができるように今後も教材研究や教師の出場等によって深めていきたい。 |
| | | ICT機器を効果的に活用した取組状況 | ○計算アタックにて取り組んでいるドリルパークの学習を通して、算数の基礎・基本的な学習が充実してきている。 ○iPadを各教科・各領域の学習にて活用している。 | ○基礎学力の向上⇒個別最適な学習の充実 ○思考力・判断力・表現力の向上⇒協働的な学びの充実 ○情報活用力、プログラミング思考の向上 ・iPadの活用 ・プログラミング教材の活用 | ・ドリルパーク、デジタル教科書を活用し、漢字の定着、計算力を向上させる。 ・オクリンク、ムーブノートを活用し、算数の授業における「おたずね」の活性化等、表現力の向上させる。 ・iPadを効果的に活用できるよう、情報活用力を育む。 | | | ・朝の学習にて、ドリルパークを活用する。 ・授業の中に「オクリンク」や「ムーブノート」を活用する。 ・iPadを効果的に活用していく。 |
| | 定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科) | ◆簡単な計算間違いをしがちなで、説明を要するような問題が弱い傾向にある。(経年) ◆児童一人ひとりの「つまづき」の確認、きめ細やかな指導を必要とする必要がある。 | ○個別指導の充実 ○授業の進め方の改善 | ・返却されたテストの誤答した部分を中心に個別支援を行い、個に応じた理解を促す。 ・漢字や語彙力、四則計算等の基礎基本の定着を図る。 | ・放課後や休み時間等を利用して、弱い部分の補充や漢字や計算の基礎基本の定着を行う。 ・タブレットの活用をさせるなどで授業力を伸ばすとともに、算数以外の授業や朝の会等で「主体的に考える」「書く力を伸ばす」授業を実践していく。 | | | |
| | 授業等からうかがえる状況(各教科) | ○どの教科でもあてやかりえりを行い、行事等でも活かされるなど定着している。全員の児童が算数を楽しんでいる。 ◆自分の意見を持っているが、体験や人と会う機会が少ないため語彙力が少ない。また、相手の意見に付け加えて自分の意見を発言することが少ない。 | ○算数のガイド学習を中心に自分たちですめることに自信を持たせて「おたずね」を行う。 ・児童アンケートで「授業はよくわかる」「算数は楽しい」の割合を90%以上にする。 | ・あてにに沿ったやりかえりが行えるように活動中にあてを意識させて「おたずね」を行う。 ・児童アンケートで「授業はよくわかる」「算数は楽しい」の割合を90%以上にする。 | ・教師の出場により、あてや既習事項を確認し、子どもたちですめることができるように「おたずね」等に支援する。既習事項の視覚化を活用する。 ・算数では時間配分を大切に本時の本質に即り、応用題やふり返りを含めた時間内に終わるように、進行の補助を行う。他教科や特別活動にもガイド学習を取り入れる。 | | | |
| | 慣学・力生向上に慣学等るの学習 | ○学習意欲・生活習慣については良好と判断できる。 【100%だった項目】 ・教師への信頼感 ・いかなる理由でもいじめはしない ・朝食を食べている。 | ○家庭における学習習慣及び生活習慣の定着・向上 | ・家庭学習が充実や習慣化、定着するよう子どもたちを指導し、通信等で家庭に発信していく。 ・生活リズムを整え計画的な学習習慣を定着させる。また、情報モラルの授業を今後も続け、タブレットの正しい使い方をさらに深めていく。 | ・学校便りや学級通信、家庭学習の手引き等を活用し懇話会や家庭訪問等で保護者に発信していく。また、保護者との連携をとっていく。 ・保護指導や保護研修、保護者の授業、学級通信等で生活習慣や健康に関する情報発信し発信していく。情報モラルの授業を今後も継続していく。 | | | |
| 研 修 内 の 研 究 ・ 状 況 | 校内研究の状況 | ◆今までの算数科の研究を引き継ぎながら、「書く力を伸ばす」「教師の出場」や「書く(描く)」ことに取り組む必要がある。 | ○校内研究の充実とガイド学習の工夫と発展 ○「子どもが作る算数科学習」 ○共同学習者の入り方と連携 | ・今年度の全国へき地大会を見据え、「子どもの深い学びをめざした子どもが作る算数科学習」に沿った研究活動を推進する。 ・算数を中心とした教科でも「おたずね」を通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善をすすめる。 ・算数を中心とした教科でも「おたずね」を通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善をすすめる。 ・1日に1回以上はICT機器を活用した授業や朝の会等を行う。 | ・「母子家庭読書の日」を20日だけでなくその週1週間と、読書活動を推進していく。ピリオドバトルやブックトークで読書力を磨かしていく。 ・学校だよりや学級通信、懇話会、学校地味運営協議会等を活用し啓蒙を行っている。 | | | |
| | 校内研修の状況 | ◆「子どもが作る算数科学習」をテーマに沿って、講師を招請し授業力の向上を図る必要がある。 ◆ICT機器の活用方法、教師の適切な出場については授業実践研修を行う必要がある。 | ○ガイド学習を活かした授業研修 ○ICT機器を活用した授業実践 ○教師の出場を活かした授業実践 | ・算数を中心とした教科でも「おたずね」を通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善をすすめる。 ・1日に1回以上はICT機器を活用した授業や朝の会等を行う。 | ・この数科で教師の適切な出場を考えたガイド学習を行うなど、「主体的に考える」力を伸ばしていく。 ・タブレット端末を取り入れた授業の工夫・改善を行い、ミライシートも活用し学力の向上を図る。 | | | |
| 家 庭 ・ 携 携 種 間 | 家庭・地域等の状況 | ○学校・学級便りやHP等により、有効な情報発信を継続している。 ◆今までも取り組んでは来ているが、より一層、地域人材を活用し、連携を図りながら一体となって進めていく必要がある。 | ○学校だよりや学年通信、またHPを活用した子どもたちの様子の発信。 ○地域人材の発掘、整備 | ・週1回の学級通信、学校便り、HPで子どもたちの様子を掲載する。 ・教頭及び学校改革担当教員が窓口となり、地域の人材バンクを整備して新たな人材開発に取り組む。 | ・通信を通して学校や学級、学習の様子、行事の案内、準備物、1週間の予定など積極的に発信し、家庭での活動となるように努める。 ・地域の資源を生かえ、地域で暮らしている方や学校地域運営協議会などと連携を密にし、活動に対する考え方を共有する。 | | | |
| | 小・中における教科連携等の状況 | ○相互の研究会等への参加や、幼小中連絡会、出前授業の取組を通して、児童生徒の理解を図り、連携が密になりつつある。 ◆幼小中連絡において決定した校区の目指す子ども像「みんな育てて育つ」を具体化・活用していく方法を探していく必要がある。 | ○幼稚園、小学校、中学校の11年間の連続性を共有した学校間連携の推進 | ・幼小中交流や小中交流、小中交流、小規模校交流を積極的に推進する。各学年、年1～2回小規模を活かした交流を行う。 ・学期に1回(年3回)以上、幼小中連絡会を開催し、前年度の成果と課題を交えた取組を推進するとともに、目指す子ども像「みんな育てて育つ」を具体化していく。 | ・目標を持って行動し、他校の児童と積極的に話すことができる活動(授業交流、zoom交流)を実施し、連携を推進する。 ・研修会、研究発表等に1人以上積極的に参加し、授業改善を図るとともに、幼小連携、小中連携、小中連携を推進する。 ・キャリアパスポートを活用し、小・中・高までの連携を図る。 | | | |